

1995年 1月 7日(土)～ 1月29日(日)

今月の寄贈品コーナー

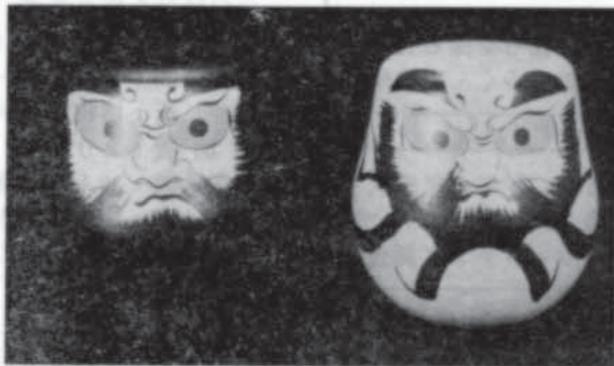
本間コレクション 《木地玩具》

1月7日
～29日

■一昨年(1993年)の8月に市内御殿在住の木地玩具コレクターの本間 満さんから、同氏所有の木地玩具が本館に寄贈され、『あなたと博物館：'93年10月号』に分類・整理中との記事を掲載しました。その後、本間さんの多大なご協力のもと分類・整理も一応終了し、「本間コレクション」と命名しました。

■1月7日(土)～29日(日)まで、寄贈品コーナーにてお正月にちなんで縁起物の木地だるまやだるま絵の描かれた木地玩具を中心に「本間コレクション」の一部を展示・紹介することになりました。

■木地玩具とは、轆轤くろくろで挽いた丸い木を組み合わせてできる木製玩具の総称です。本館に寄贈された木地玩具は、伝統こけし・木地だるま・江戸ごま・えぞこ・豆茶道具・各種こま(ひねりごま・もみごま・糸引きごま・当てごま・鳴りごま・逆立ちごま・吊りごま・ひも巻きごま・飛び出しごま等)・各種玩具(けん玉・ヨーヨー・だるま落としく正式名称は「輪抜きだるま」と言う)・輪投げ・やじろべえ・各種車類等)等多種多様にわたります。



■本間さんからは、その後も何度となくご寄贈いただき、現在総数は、1807点です。内訳は、伝統こけし：936本 木地玩具：743点 木地玩具に関する書籍・資料：66点 こけし工人直筆の色紙：62点にのびります。その中から今回は、木地だるま：52点 伝統こけし：18本 こま：10点

木地玩具：30点
関連書籍類：10冊
を展示・紹介する予定です。

■ここ神奈川県では古くから箱根・小田原・大山(伊勢原)の木地挽き技術がすぐれ、名品といわれるたくさんの「木地玩具」を産み出しています。

■明治・大正時代に東北地方(遠刈田温泉・鎌先温泉・青根温泉<宮城県>)では、小田原産の木地玩具の影響を受け、組み合わせ式のいわゆる「動く木地玩具」は、ほとんど全部といってよいぐらい小田原のものを大量に取り寄せて、職人たちがそれらをもとに、この地方に合うように作り直し、湯

治客らの土産物として店先に並べました。現在では、その主たる産地は東北地方に移っています。

■『東北地方の木地玩具のルーツは小田原にあり』と言えそうです。

(注) えぞこ：東北地方の山村では、昔、藁で作った「えぞこ」に幼児を入れて寝かせて育てました。その様子を轆轤で挽いて色付けし、その上に幼児の頭部をつけた東北特有の木地玩具も「えぞこ」と言います。